



火災・救急・救助 119

消防瓦版纏

まとい

No.446

富良野広域連合富良野消防署占冠支署
56 - 2119

子どもが急病!? 救急車を呼ぶその前に・・・

お子さんが急に熱を出した、転んだ、頭をぶつけたなど、どうしたら良いのか判断に迷うことはありませんか。今月号では、そんな時に利用できる相談機関をお知らせします。また、洗剤やたばこ、薬剤といった子どもの誤飲事故などの相談に応じる機関についてもお知らせしますので、参考にしてください。

北海道小児救急電話相談

看護師が電話相談に応じ、直ちに救急病院にかかる必要があるか、家庭でどのような応急処置をすれば良いのかといったアドバイスを行います。より専門的な知識を要する相談は小児科医が応じます。

相談時間：毎日 夜7時から翌朝8時まで
☎ 011 - 232 - 1599 または #8000(短縮ダイヤル)

こどもの救急(ONLINE・QQ)

(公社)日本小児科学会のウェブサイトでは、お子さんの気になる症状について、該当項目にチェックを入れると対処方法に関する参考情報が得られる機能があります。
対象年齢：生後1カ月～6歳



中毒110番・電話サービス

(公社)日本中毒情報センターでは、子どもの誤飲事故に関する相談を受け付けています。お子さんの年齢や体重、誤飲したものの正確な名称・飲んだ量など事故の状況をお伝えください。

一般専用電話(365日24時間対応)(情報提供料：無料)
■大阪中毒110番 ☎ 072 - 727 - 2499
■つくば中毒110番 ☎ 029 - 852 - 9999

全国版救急受診アプリQ助

消防庁が開発したアプリです。症状の緊急度を素早く判定し、救急車を呼ぶ目安を知るのに役立ちます。



案内サイト⇒

救急出場状況(10月分)

交通事故	1件(1人)
一般負傷	1件(1人)
自損行為	1件(1人)
急病	7件(6人)

10月計 10件(9人)
累計 189件(160人)
※()内は傷病者搬送人員



野生動物対策の状況

農林課林業振興室
野生鳥獣専門員
56 - 2174



エゾシカ

10月の駆除による捕獲数は49頭でした。11月も堅調で、今年度累計は400頭を超えました。例年と比べて、夏以降の捕獲が多くなりましたが、背景として農地で活動するシカの数が多いことが挙げられます。村の月毎の調査では、例年値と比べて6月までがほぼ同水準、7月以降は倍ほどの高水準で推移しております。全体の個体数よりも行動の変化による影響が大きいと思われます。



ヒグマ

11月以降、活動情報は徐々に減る傾向にあります。雪が積もったことで足跡が分かりやすくなり、情報件数は一旦増えますが、特に心配な事例は見受け

られません。おおむねこのまま冬眠に入っていくものと思われますが、昨年度は12月や1月にも林内で活動情報がありました。今期がどうなるか注視しています。

昨今全国で問題になっているクマの市街地侵入に対して、緊急銃猟も含めた対応を円滑に行えるよう、11月6日に机上訓練を行いました。村職員、駐在所員、捕獲従事者らが集まり、千歳の住宅地にヒグマが入った想定で、どんな対応が有効か激論を交わしました。今後もさまざまな形態で取り組みを重ねてまいります。



地域とともに

コミュニティ・スクール情報
～占冠中学校～

教育委員会学校教育担当 ☎ 56 - 2182

令和7年度の探究学習「SDGsの視点から考える占冠」について

本校では探究学習のテーマを「SDGsの視点から考える占冠」とし、地域の課題解決に向けた提案型の探究学習に取り組みました。生徒が地域の課題を自分事として捉え、正解のない問いに挑戦する力を育てることを目的としています。地域の現実を見つめ、より良い占冠の未来を考える活動を通して、学びが社会と結びつく実践的な力を養うとともに、夢を持ち、これからの時代をたくましく歩み続ける子どもの育成をめざしています。

◆ 社会とつながる深い学び

活動の中では、占冠村役場の職員や専門家など、多くの方々との交流を重ねました。現場での聞き取りや意見交換を通して、教室だけでは得られない社会で生きる知識や技能を身に付けることができました。アンケートでは、全ての教員が「教科を越えた学びを意識している」と答えています。探究活動が学力の基盤強化にもつながっています。



◆ 国際交流と英語による発信

探究で培った技能を生かして占冠村を英語で紹介するプレゼンを作成し、姉妹都市アスペン市からの留学生との交流の際に発表しました。また、1月のアスペン市への短期留学では、占冠村の紹介に探究の内容を加え、現地の中学生の前で発表する予定です。英語による情報発信を通じて、言語や文化に対する理解を深め、コミュニケーション能力の育成を意識しています。



◆ 北海道大学との連携

北海道大学との連携授業として、大学院生を交え発表交流会を実施しました。学生からさまざまな助言を受け、生徒は専門的な視点を学び、課題をより深く掘り下げることができました。こうした交流を通し、生徒一人一人がふるさと占冠を見つめ直し、より良い地域づくりに貢献する意識を高めていきました。



こちら駐在所です

占冠駐在所
56 - 2110

飲酒運転の根絶 ～ 飲む前に 車じゃないよね? 再確認 ～

飲酒運転は悪質な犯罪!

飲酒は安全運転に必要な情報処理能力、注意力、判断能力を低下させ、重大事故につながる危険を高めます。一人一人が「飲酒運転をしない、させない、許さない、そして見逃さない」ことを強く意識して、北海道から飲酒運転を根絶しましょう。

また、二日酔いでの運転も「飲酒運転」になります。アルコールチェッカーなどを使用して身体にアルコールが残っていないことを確認しましょう。

「ハンドルキーパー運動」で飲酒運転防止!

ハンドルキーパー運動とは、仲間と車で飲食店に行く場合はあらかじめお酒を飲まない人(ハンドルキーパー)を決めて、その人が仲間を自宅まで送り届けることです。

お酒を提供する飲食店では「来店客が車で来ていないか」、車で来ている場合は「ハンドルキーパーは誰なのか」を確認して、飲酒運転を防ぎましょう。

飲酒運転は、運転者以外も処罰の対象!

飲酒運転は、運転者だけでなく、運転者以外の人にも重い処罰があることを知っていますか。

車を運転する恐れのある人にお酒を提供したり、お酒を飲んでいる人に車を提供したり、飲酒運転の車に同乗した場合は、飲酒運転と同様に処罰の対象になります。

